

指標評価シート

第2分科会

(基本目標1 元気で魅力あるまち)

政策(3) 心豊かな暮らしを支える健康づくり

【基本計画の目標指標】

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>R2</td><td>63.6</td></tr><tr><td>R3</td><td>63.7</td></tr><tr><td>R4</td><td>60.1</td></tr><tr><td>R5</td><td>59.1</td></tr><tr><td>R6</td><td>57.8</td></tr></tbody></table>	年度	割合 (%)	R2	63.6	R3	63.7	R4	60.1	R5	59.1	R6	57.8
年度	割合 (%)													
R2	63.6													
R3	63.7													
R4	60.1													
R5	59.1													
R6	57.8													
からだが健康だと思う市民の割合（市民意識調査）														
基準値	目標値（R9）													
63.7% （R3年度）	70.0%													

推移の分析・考えられる要因	評価
積極的な健診の受診勧奨や啓発、環境整備等により、生活習慣病の予防や健康に関する意識は高まりつつあると考えられる。しかし、健診受診や生活習慣改善などの具体的な行動に結びついていない状況や、高齢化率の上昇、運動不足等が、減少の要因と考えられる。	横ばい （-）

指 標		<table><thead><tr><th>年次</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R2</td><td>62.6</td></tr><tr><td>R3</td><td>61.5</td></tr><tr><td>R4</td><td>58.5</td></tr><tr><td>R5</td><td>61.6</td></tr><tr><td>R6</td><td>57.7</td></tr></tbody></table>	年次	値	R2	62.6	R3	61.5	R4	58.5	R5	61.6	R6	57.7
年次	値													
R2	62.6													
R3	61.5													
R4	58.5													
R5	61.6													
R6	57.7													
心が健康だと思う市民の割合（市民意識調査）														
基準値	目標値（R9）													
61.5% （R3年度）	70.0%													

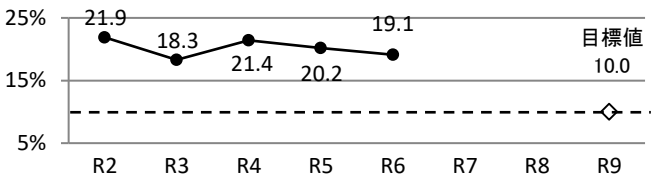
推移の分析・考えられる要因	評価
心の健康には、身体状況、社会経済状況、住居や職場の環境、対人関係等、多くの要因が影響している。昨年度と比較すると微減であり、ストレスを感じている方、休養不足の方、うつ等の病気の方、人とのつながりが希薄な方等が少なくないと考えられる。	横ばい （-）

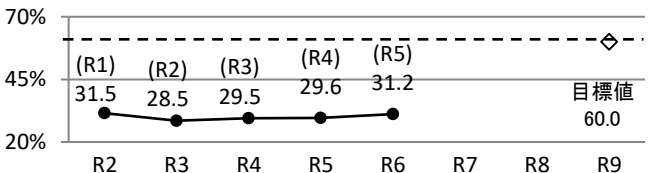
指 標		<table><thead><tr><th>年次</th><th>がん死亡率 (人口10万人対)</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H30) R2</td><td>555.7</td></tr><tr><td>(R1) R3</td><td>448.4</td></tr><tr><td>(R2) R4</td><td>450.4</td></tr><tr><td>(R3) R5</td><td>559.1</td></tr><tr><td>(R4) R6</td><td>547.4</td></tr><tr><td>目標値 R9</td><td>400.0</td></tr></tbody></table>	年次	がん死亡率 (人口10万人対)	(H30) R2	555.7	(R1) R3	448.4	(R2) R4	450.4	(R3) R5	559.1	(R4) R6	547.4	目標値 R9	400.0
年次	がん死亡率 (人口10万人対)															
(H30) R2	555.7															
(R1) R3	448.4															
(R2) R4	450.4															
(R3) R5	559.1															
(R4) R6	547.4															
目標値 R9	400.0															
がん死亡率（人口10万人対）																
基準値	目標値（R9）															
450.4 （R2年）	400.0															

推移の分析・考えられる要因		評価
がん死亡率は高齢化や人口減による影響が大きくなる要因と考えられる。昨年度と比較すると、11.7ポイント減少しており、禁煙、食生活改善、運動の習慣化、がん検診受診率向上の取組を引き続き継続していく。		横ばい （--）

指 標		<table border="1"><caption>自殺死亡率（人口10万人対）推移の分析</caption><thead><tr><th>年次</th><th>自殺死亡率</th></tr></thead><tbody><tr><td>R2</td><td>23.2</td></tr><tr><td>R3</td><td>39.3</td></tr><tr><td>R4</td><td>12.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>26.5</td></tr><tr><td>R6</td><td>39.5</td></tr></tbody></table>	年次	自殺死亡率	R2	23.2	R3	39.3	R4	12.0	R5	26.5	R6	39.5
年次	自殺死亡率													
R2	23.2													
R3	39.3													
R4	12.0													
R5	26.5													
R6	39.5													
自殺死亡率（人口10万人対）														
基準値	目標値（R9）													
12.0 （R2年）	16.8以下													

推移の分析・考えられる要因		評価
前年と比べ増加した。増減を繰り返す傾向があり、増減の要因については解明し難い。自殺者の特徴としては、60歳以上の無職者が上位を占め、背景には失業や生活苦、身体疾患等からうつ状態に陥り、自殺に至る危機経路が考えられる。		不調 (>_<)

指 標		
喫煙率（市民意識調査）		
基準値	目標値（R9）	
18.3% （R3年度）	10.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
ほぼ横ばいで推移している。喫煙率が下がらない要因として、禁煙に無関心な方や禁煙の意思はあるが、ニコチン依存や心理・行動的依存等により、禁煙を継続できない方が多いことが挙げられる。		横ばい （-_-）

指 標		
特定健康診査の受診率		
基準値	目標値（R9）	
28.5% （R2年度）	60.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
R2年度以降、受診率としては微増となっている。受診者数は毎年ほぼ変わらないものの、国民健康保険の被保険者数が毎年減少しているためと考えられる。定期的に通院治療しているという理由で受診しない傾向があるため、受診勧奨の方法等工夫が必要である。		横ばい （-_-）

【政策の評価】

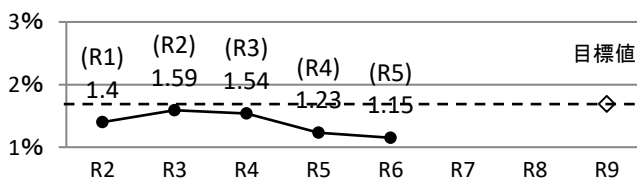
市民協働会議 評価	（評価の理由と今後の方向、取り組み）

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

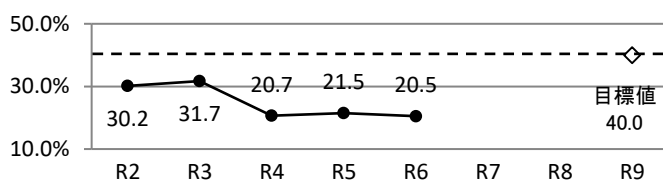
政策(1)	地域や社会で支える子ども・子育て
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

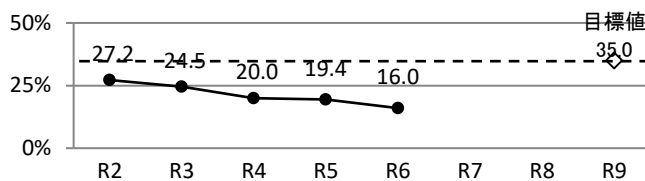
指 標		
合計特殊出生率		
基準値	目標値(R9)	
1.54% (R2年)	1.69%	
推移の分析・考えられる要因		評価
出生数の減少が見れる。 R6.2に実施した市民アンケートによれば、コロナ禍の影響で結婚や出産に影響があった方が一定数おり、出生率にも反映しているものと考えられる。また、子どもを望まない理由として経済的な理由を挙げる人(47.6%)が最多となっている。		不調 (>_<)



指 標		
子どもを生き育てやすいと思う市民の割合(市民意識調査)		
基準値	目標値(R9)	
31.7% (R3年度)	40.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
結婚から出産・子育て期を切れ目なく支援するため、結婚・出産祝い金制度や出産・子育て応援給付金の実施、福祉医療費の拡充、保育所待機児童や放課後児童クラブの発生防止対策等を実施しているが、新型コロナウイルスの影響や物価高騰等により、子育て世帯の経済的な負担が大きくなっていることが影響していると思われる。		横ばい (--)



指 標		
子育てを地域で支えあう雰囲気があると思う市民の割合(市民意識調査)		
基準値	目標値(R9)	
24.5% (R3年度)	35.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
妊娠・出産・子育てに対する不安を払拭し子育て世帯への相談体制の充実と経済的支援を一体的に図るため、出産・子育て応援事業を実施しているが、新型コロナウイルスの影響等により地域等との関わりが少なくなったことが影響していると思われる。 令和6年度より0歳児がいる家庭を対象に、定期的な見守りを行い、育児用品等を配布する能代市すまいる♡めんchoco定期便を実施し、地域で支える体制を整え、子育ての不安解消や孤立、虐待の予防等を図りたいと考えている。		横ばい (--)



【政策の評価】

市民協働会議 評価	(評価の理由と今後の方向、取り組み)
--------------	--------------------

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(2)	次代を担う子どもを育てる学校教育
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	
子どもが地区でのびのびと育っていると思う市民の割合(市民意識調査)	
基準値	目標値(R9)
55.8%(R3年度)	60.0%

年度	割合(%)
R2	54.8
R3	55.8
R4	45.7
R5	48.6
R6	39.6
R9(目標)	60.0

推移の分析・考えられる要因	評価
コロナを機に地区の催し等が中止となり、そのまま再開していないものも多くあり、地区での結び付きが希薄になったためと思われる。	不調(>_<)

指 標	
地域の行事に参加している児童・生徒の割合	
基準値	目標値(R9)
74.5%(R元年度)	75.0%

年度	割合(%)
R2	74.5
R3	(未調査)
R4	54.7
R5	53.9
R6	56.3
R9(目標)	75.0

推移の分析・考えられる要因	評価
小学校、中学校ともにふるさと教育者キャリア教育等、地域と関わる活動を充実させ、地域理解や地域について考える機会となっている。そのため、地域行事に参加する児童生徒が増加している。	横ばい(--)

指 標	
不登校児童・生徒の出現率	
基準値	目標値(R9)
1.84%(R3年度)	2.12%以下

年度	出現率(%)
R2	1.14
R3	1.48
R4	1.84
R5	1.95
R6	1.99
R9(目標)	2.12以下

推移の分析・考えられる要因	評価
保護者の生活状況、養育態度・能力、心身の健康面やメディア・ゲーム依存等の要因が複合的に絡み、不登校となっている児童生徒が増加している。	横ばい(--)

【政策の評価】

市民協働会議 評価	(評価の理由と今後の方向、取り組み)

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(4)	地域で活躍する元気な高齢者
-------	---------------

【基本計画の目標指標】

指 標	
高齢者人口に対する自立高齢者率	
基準値	目標値 (R9)
78.7% (R3年度)	80.0%

年度	率 (%)
R2	79.1
R3	78.7
R4	79.1
R5	79.5
R6	80.6
R9 (目標)	80.0

推移の分析・考えられる要因	評価
各地域に出向き、介護予防教室を開催し予防の普及・啓発を行うとともに、介護予防事業につなげている。また、介護予防教室修了者による自主グループの結成に取り組んでいることや、介護申請の適正化により、実績値は上向いているため、今後も継続していく。	順調 (^_^)

指 標	
自治会・町内会や老人クラブ・ボランティア活動など、市民活動に参加することを心がけている高齢者の割合 (市民意識調査)	
基準値	目標値 (R9)
42.3% (R3年度)	50.0%

年度	割合 (%)
R2	40.1
R3	42.3
R4	35.8
R5	39.7
R6	33.3
R9 (目標)	50.0

推移の分析・考えられる要因	評価
自治会・町内会の役員等、活発に市民活動を行っている人材の固定化・高齢化により減少傾向にあると考えられる。	不調 (>_<)

指 標	
高齢者の生きがいと健康づくり事業参加者数	
基準値	目標値 (R9)
1,535人 (R2年度)	4,500人

年度	人数
R2	4,739
R3	1,535
R4	1,147
R5	2,765
R6	3,807
R9 (目標)	4,500

推移の分析・考えられる要因	評価
感染症対策を講じながら事業を行い、参加しやすい環境を整えた。また、小規模でも地域に出向いて開催するなど、内容の磨き上げにより満足度の向上を図ったところ、参加者数の増につながった。	横ばい (-_-)

【政策の評価】

市民協働会議 評価	(評価の理由と今後の方向、取り組み)

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(5) 自立した暮らしを支える社会福祉・社会保障

【基本計画の目標指標】

指 標	目標値
市の障がい者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数 (H18年度からの累計)	42
基準値	目標値 (R9)
35人 (R2年度)	42人

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
移行人数	34	35	35	37	37			42 (目標)

推移の分析・考えられる要因

移行後の生活を支えるサービス体制は徐々に整っているが、施設入所者は重度者が多く、地域生活への移行は緩やかとなっている。

評価
横ばい (--)

指 標	目標値
事業所における障がい者雇用率 (能代山本)	3.06
基準値	目標値 (R9)
2.84% (R2年度)	3.06%

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
雇用率 (%)	2.65	2.84	2.58	2.62	2.54			3.06 (目標)

推移の分析・考えられる要因

法定雇用率より高いポイントとなっているが、障害者雇用数は7.5人減り0.08ポイントの減少となった。精神障害者の求職者が多いが雇用に結びついていない。

評価
横ばい (--)

指 標	目標値
障がいのある人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合 (市民意識調査)	20.0
基準値	目標値 (R9)
14.5% (R3年度)	20.0%

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
割合 (%)	14.8	14.8	13.5	14.6	13.1			20.0 (目標)

推移の分析・考えられる要因

社会参加には人との関りが伴うが、障がい者と一緒に活動する機会が少ないことが要因の一つとして考えられる。

評価
横ばい (--)

指 標	目標値
公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率	29.0
基準値	目標値 (R9)
25.0% (R2年度)	29.0%

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
クリア率 (%)	25.0 (未調査)	24.7	25.0	25.3				29.0 (目標)

推移の分析・考えられる要因

6項目クリア率が0.3ポイント増加した。クリアしている施設は23施設と変わらないが、対象施設が92施設から91施設に減ったことによる。

評価
横ばい (--)

【政策の評価】

市民協働会議
評価

(評価の理由と今後の方向、取り組み)